

# 「ビジネスストーリーから学ぶ

## SDGs（別子銅山・倉敷）」

担当教員 長谷川直哉 竹原正篤

### コース概要

日程 2019年9月9日～12日

場所 愛媛県松山市・新居浜市別子銅山、岡山県倉敷市倉敷紡績関係施設

参加人数 22名

### コースのねらい

愛媛県新居浜市の別子銅山（住友財閥）と岡山県倉敷市の倉敷紡績関係施設を訪問し、日本版 CSR の第一人者といわれる伊庭貞剛・鈴木馬左也（住友財閥）と大原孫三郎・總一郎親子（倉敷紡績・クラレ）が実践した SDGs 経営の歴史をたどる。彼らの経営を通じて、現代における企業経営のあり方を考える。

### 内容

#### 1日目

松山市内にて現地集合後、坂の上の雲ミュージアムと道後温泉本館を見学しました。坂の上の雲ミュージアムは、司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』をテーマにまちづくりの中核施設として誕生した施設です。小説『坂の上の雲』には、近代国家形成期である明治期に世界や日本で起きた出来事、正岡子規や夏目漱石など松山にゆかりの深い人びとの人生が描かれ、現代を生きる私たちに大きな示唆を与えてくれます。夜は、金融機関の松山支店で活躍している長谷川研究会の OG も参加し、松山の地元料理を堪能しながら参加メンバー間の交流を深めました。

#### 2日目

バスで新居浜市に移動し、住友財閥によって開発された別子銅山跡を見学しました。別子銅山は、1690年（元禄3年）に発見され、以来、1973年（昭和48年）に閉山するまで283年にわたり、銅を産出し日本の近代化に貢献しました。しかし、銅の製錬過程から生じる亜硫酸ガスによって農作物が被害を受け、足尾銅山（栃木県）と並んで、日本の初の産業公害を発生させました。煙害問題の解決にあたった当時の住友財閥の経営者は、植林など自然環境の復元にも心血を注ぎ、企業の社会的責任の先駆者とも言われています。足尾銅山の鉱害を追及していた田中正造も、別子銅山を「我が国銅山の模範」と評しています。

#### 3日目

鉄道で瀬戸大橋を経由して松山から倉敷に移動し、法政大学にもゆかりの深い大原孫三郎が経営した倉敷紡績工場跡や CSR（Corporate Social



写真1 別子銅山遺跡

**Responsibility** : 企業の社会的責任) 活動の一環として設立された倉敷中央病院を訪問しました。大原孫三郎は、倉敷紡績 (クラボウ)、倉敷絹織 (現在のクラレ) 中国合同銀行 (中国銀行の前身)、中国水力電気会社 (中国電力の前身) の社長を務めた人物です。大原は CSR 活動にも熱心に取り組み、倉敷中央病院、大原美術館、大原社会問題研究所 (現・法政大学大原社会問題研究所) を設立しました。倉敷中央病院では、相田副理事長から病院の沿革と現在の役割についてレクチャーを受け、明治期に欧州から購入した貴重な医学書や院内に憩いと潤いを与える美術品やアトリウムを見学し、病院らしくない病院の建設を目指した大原孫三郎の思いを体感しました。また、第二次世界大戦の戦災を免れた倉敷美観地区を散策し、江戸～昭和の建物が保存された町並みを楽しみました。

#### 4 日目

大原美術館の学芸員からレクチャーを受けた後、日本初の西洋美術館として設立された大原美術館の収蔵品を時間の許す限り鑑賞しました。大原美術館には、エル・グレコの名品「受胎告知」をはじめ、モネの「睡蓮」など印象派から現代に至る西欧美術の代表作と、明治期以降の日本の近代美術の名画が揃っています。CSR 活動に積極的に取り組んだ大原孫三郎自身が「私の一番の最高傑作」と言って憚らなかった大原美術館を見学し、企業の社会的責任について参加者それぞれが考える時間を持つことができました。午後、倉敷駅にて解散し各自帰路につきました。

#### 学習を終えて

私は倉敷中央病院を訪問し、現在では当たり前のように思える病院の整った設備環境や従業員の働く環境を、CSR という言葉がない時代に生きていた 90 年以上前の経営者が自らの私財で作上げた事に驚きました。大原孫三郎の経営者としての能力と事業を通じて獲得した資本を地域社会のために投資していく姿勢に感銘を受けました。大原孫三郎については、ビジネスヒストリーの授業で学びましたが、現地を訪れて経済価値と社会価値の両立を目指した経営が現代社会に生きていることを実感しました。現代企業も SDGs を通じて、大原孫三郎のような経営を実践して欲しいと思います。(3 年生)

フィールドスタディで初めて松山と倉敷を訪れて、日常生活では絶対にできない貴重な体験をたくさんすることができました。首都圏以外に住んだ経験のない私は、地域社会が持っている特有の文化・産業など、見るもの全てが新鮮でした。銅山が生み出す経済的な恩恵が日本の近代化に果たした役割の大きさを知りました。また環境破壊という負の影響を完全に排除することを諦めなかった経営者の存在を知り、CSR が 100 年以上前から実践されていたことに驚きました。(1 年生)



写真 2 倉敷中央病院図書館・明治時代に欧州から購入した医学書



写真 3 江戸・明治・大正・昭和の町並みが残る倉敷美観地区



写真 4 倉敷・大原美術館前にて